

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園
教育理念	◎子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体と 優しい心、人と関わる力、たくましさ育てていく。 ◎遊びを中心に子ども達の主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。

1 事業名	子どもたちの気づきと協同性を育む音楽遊び
2 実施期間	令和 7年 5月 1日 ～ 令和 8年 3月10日

3 取組概要	(取組日) 令和 7年 5月 1日 ～ 令和 8年 1月22日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	年少(3歳児)の取り組み わらべうた遊びを中心に指導を行う。友達や保育者と一緒に活動を展開する中で、リズム感やテンポ感等の音楽的感性を養うことを目的としている。毎回とてもいきいきとした表情でのぞんでおり、わらべうた遊びを楽しんでいる姿が見られた。その取り組みと並行してカスタネット、タンブリン、鈴、ウッドブロックの経験を取り入れる。リズム打ちの正確さではなく、まず楽器に親しむ事を目的に取り入れた。	
	(取組日) 令和 7年 5月 8日 ～ 令和 8年 3月 10日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	年中(4歳児)の取り組み 鍵盤ハーモニカをスモールステップで取り入れた。鍵盤には音によって違う色テープを貼り、子どもたちが無理なく取り組めるように配慮した。まずは鍵盤ハーモニカに親しむ内容を取り入れ、「かえるのうた」を弾けるように指導を展開した。その取り組みと並行してリトミックを行う。音楽をよく聴きその音楽の変化に即時的に反応しながら表現する(即時反応表現)に重きをおいて活動を行った。回数を重ねる中で、音楽を聴きその音楽に合わせて自由に表現する姿も多く見られるようになった。	
	(取組日) 令和 7年 5月 12日 ～ 令和 8年 3月 5日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	年長(5歳児)の取り組み 楽器遊びを中心に活動を展開する。使用楽器は鍵盤ハーモニカ、カスタネット、タンブリン、鈴、ウッドブロック、ミュージックベル、小太鼓。まずどのように各々の楽器を使用するか探索を促してから、楽器の扱い方や合奏をする際の約束等子どもたちと話し合いながら進めていった。静止した状態で楽器を演奏するだけでなく、充分身体を動かしながら楽器を演奏する方法も取り入れた。子どもたちは全身でリズムを感じ、生き生きと活動に参加していた。	
	(取組日) 令和 8年 3月 5日 ～ 令和 8年 3月 5日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	年長(5歳児)のお別れ会での音楽発表会 ホールで保護者の方々、01234歳児に見守られての演奏。各クラス鍵盤ハーモニカと合奏を行う。個々しっかりそれぞれのパートに責任をもって取り組み、お互いの音を聴きあいながら演奏を進めていた。とても堂々とした姿で演奏をしている姿が印象的であった。	

格	説	名	仲侶速推判認定ニシテ團内以テシテ推選
---	---	---	--------------------

施設名	幼稚園・認定こども園 ぬいしり幼稚園
-----	--------------------

幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)

事業名	アパレルの年、ファッション情報や流行を
-----	---------------------

対象学級(クラス名)	全園児、1歳児組(1A、1B)、2歳児組(2A、2B)、3歳児組(3A、3B)、4歳児組(4A、4B)	27名
------------	---	-----

	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況
--	-------------------------------------

.....

	事業実績から推測される効果や改善点等
--	--------------------

--	--

	事業実績から推測される効果や改善点等
--	--------------------

.....

計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 3.4.5歳児の発達段階に合わせて段階的に音楽指導をすることを前提に活動を繰り返し広げる。 3歳児においては日本語のイントネーションに基づいたわらべうた遊びを中心に指導を行い、その過程においてリズム感や音楽的感性を培いその後の指導につなげる。 4歳児においてはリズムを中心に指導を行い、その過程で、リズム感・拍を感じる心等の楽器遊びに繋がる感覚を養うと共に、手作り楽器や様々な楽器に触れる指導を行う。 5歳児においては、「子どもが1から創り出す音楽会」に取り組む。曲選び・手作り楽器作成・指揮経験・合奏の構成・音楽発表会までのすべての過程に対して主体的に取り組む。音楽指導の時だけで補えない分は普段の保育の中でも日常的に取り入れ、音楽指導と日常の保育が乖離しないように充分配慮する。 上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 音楽に親しみ、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わうことは、60余年前から本園の特色として鼓笛隊が主に取り入れられてきた。21世紀型保育が推奨される現在、従来とは異なるアプローチを模索した結果、音楽活動を大切にしてきた園の基盤を発展させるべく本取り組みを実施する。 「楽器指導は保育者主体に教えるもの」としてきた音楽指導と現行の幼保連携型認定こども園教育・保育要領の考え方の間にはずれがある。保育者がどこまでかかわり何を持って子どもたちの主体的な音楽活動とするのか沢山の課題点があるが、子どもたちと一緒に試行錯誤しながら本取り組みに向けて進める中で課題に対する方向性と方策を明らかにしていく。 本園においては、少人数のきめ細やかな保育の設定を行っている。又、多くの保育者が関与して音楽遊びを客観的に考察する視点があり、幅広い視野からPDCAを基盤に本取り組みを推進させていくことが出来る。 (継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 2月に開催される作品展への取り組みの中で、子どもたちが手作り楽器を作成する。それを音楽発表会に取り入れ、他領域との関連を考えた上での取り組みを行う。 様々な材料を準備しておき、子ども達自身でどのような楽器を作成したら良い原案から考案して作成する。そのことを通して、楽器の仕組みにより興味を持つと共に楽器への愛着、音楽への親しみを増す効果が期待される。 鍵盤ハーモニカを4.5歳児でスモールステップで取り入れる。幼小連携の視点を考慮し、無理なく作音楽器の導入をする。 色々な楽器を紹介することで、手作り楽器へのイメージを広げやすくすることが昨年度の取り組みから明らかになった。本年度はジャンベ、カホン、ギロ、シェイカー、マラカス、クラベス等の楽器も子どもたちに体験してもらう。
		事業実績から推測される効果や改善点等
	事業後 6についての効果・検証	鍵盤ハーモニカを4.5歳児において取り入れたことで、子どもたちの定音楽器への興味関心が広がった。5歳児においては幼小連携を意識して小学校での取り組みも紹介しながら小学校への期待にも繋がるように指導を行った。 ジャンベ、カホン、ギロ、マラカスなどの楽器を5歳児には体験してもらうことができた。それらの体験を通して手作り楽器作成につなげるまでできなかったことが今後の課題である。
	7 環境構成例	手作り楽器製作においては、幼児が自分のイメージを形にできるように、紙コップ・紙皿・トイレットペーパーの芯・空き箱などの廃材や描画材料、シール等 様々な素材・材料を用意すると共に、本物の楽器を合わせて用意する。 楽器あそびにおいては様々な楽器に自由に触れられる環境を用意する。(鍵盤ハーモニカ・カスタネット・鈴・タンブリン・トライアングル・ウッドブロック・ミュージックベル・木琴・小太鼓・大太鼓・キッズジャンベ・カホン等) 5歳児においては、幼小連携の観点、演奏(楽器遊び)することと聴く(音楽鑑賞)ことは車の両輪であるとの考えの基、楽器遊びと並行して音楽鑑賞に対しても重点を置く。その際使用する曲は、クラシックに限らず、日本音楽・歌曲・ロック・ポップ・民族音楽など様々なジャンルを扱う。

計画時	事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 自由に楽器遊びをする環境を施設的に用意することは出来なかったが、担任の協力の元、通常の保育の中に楽器遊びを入れ込むことが出来た。そのことにより楽器に子ども達はより親しみを持ち身近な存在として触れることが出来た。 音楽遊びの際、音楽鑑賞を取り入れることで、子ども達の様々なジャンルの楽曲への興味関心を高めることが出来た。
	8	期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 主体的に環境や活動に関わることで、様々なものに対して興味関心が広がると共に、様々な表現方法で自分なりに表現できるようになる。 子ども達の気づきを指導者が言語化し、他児とも共有していくことで、表現する過程を楽しむ表現の多様性を身に付けることができる。 様々な音楽活動の体験を通して豊かな感性やイメージを助長する。 友達と協力して(協同性を発揮して)最後までやり遂げる力を育み、クラスで1つのものを作りあげる満足感を味わう。
	事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 期待される児童の姿は全て達成された。特に気づきと協同性の場面において顕著である。5歳児のお別れ音楽会は、子どもたちの成長の姿がしっかりと反映された音楽会となった。又それを見学した3.4歳児にとっても5歳児の姿は、音楽表現活動における憧れの対象の形成となりよりよい体験となった。
	9	効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 子どもたちの気づきと主体性を大切に音楽表現活動を進めてきた。特に楽器あそびにおいては、保育者主導になりがちな点を子どもたちからの気づきを待ちながら、活動を進めることを念頭に置き、指導を繰り返してきた。その過程で子ども達の様々な気づきや発見から指導者自身も多くの事を学ばせてもらったと同時に「待つ保育」の大切さを再認識することが出来た。5歳児子ども達から音楽発表会はミセスの曲でトリクエストがあった際、保育で扱う音楽の枠を超えて子どもたちが音楽を捉えていること、園生活の様々な場面で経験する音楽の在り方の重要性をひしひしと感じることに繋がった。一年間3.4.5歳児の活動過程において、様々な音楽表現活動を通して子どもたちが音楽を楽しむ姿勢、主体性、協同性の育みと成長を年間を通じて実感することが出来た。 本園の特色として今後も継続する活動である。今後は2歳児に枠を広げてつながりのある音楽表現活動計画を立案すると共に、子ども達の主体的な音楽表現活動の在り方の模索と更なる充実を図っていきたい。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。